

## 「コミュニケーション能力の素地を育む英語科学習」 ～4技能の体験的な学びを取り入れた指導の充実～

### I 研究の内容

#### 1 研究の目的

コミュニケーション能力の素地を育むために、英語科における4技能の体験的な学びを充実させるための指導のあり方を追究する。

#### 2 研究の内容

- \* 4技能の体験的な学びを取り入れた指導の充実を図る。
  - ・教材教具や指導形態，評価などの工夫をする。
  - ・4技能の体験的な学びのための指導方法を工夫する。
  - ・一人一実践を公開し合う中で，英語科の授業力を高める。
- \* 評価規準の客観化を図る。
  - ・評価規準を，より客観的で具体的な評価規準とする。
- \* 英語の日常生活に取り入れる取り組みを進める
  - ・英語科の授業外の間や方法，内容の工夫をする。
  - ・ALT や JTE などの専門性を有効活用する。

#### 3 研究の方法

##### <授業研究>

- ・校内授業研究を行い，全学年の授業を公開し合う。
  - ・[低学年部会] [高学年部会] の2ブロックを基本として，授業研究を行う。
  - ・部会研究の内容を交流し合い，共通理解を持つ。

##### <体験的な学びのための指導の工夫>

- ・各ブロック内等で研究した実践を全体研究に反映させながら，さらに深めていく。

##### <評価規準の客観化>

- ・全体研究で学習を深め，内容や形式等の共通理解を図る。
- ・作業については，ブロック内で分担して作成する。

##### <児童の実態把握>

- ・児童の実態調査を年2回行い，成果や課題を分析したり，意識の変容を見取ったりする。
- ・個に対応した支援のあり方を研究する。

#### 4 実践内容

- |                |         |
|----------------|---------|
| 1 学年 「どの色が好き？」 | 樋口仁美教諭  |
| 2 学年 「形で遊ぼう」   | 加々美教子教諭 |

- |                    |         |
|--------------------|---------|
| 3 学年 「好きなものを伝えよう」  | 小野真理子教諭 |
| 4 学年 「カフェテリアで」     | 飯室林教諭   |
| 5 学年 「注文をしよう」      | 山宮将仁教諭  |
| 6 学年 「自分の一日を紹介しよう」 | 竹川きよみ教諭 |

## II 成果と課題

### 1 成果

- ◇体験的な学びとして、疑似体験や児童の実体験、思いを取り入れた場面設定での学習内容を工夫した。「自分のことば」として言いたくなるような活動を取り入れたことで、単なる発話練習に終わらず、「自分のことを表現したいという強い気持ち」に駆られ、学習への意欲がより高まった。また、学習した内容が児童の日常生活とも深く結びついているため、理解や習得へもつながった。
- ◇「Let's start」で各学年に応じた「Greeting time」の時間を設定し、一人一人が ALT・JTE・ボランティア・HRT と既習内容を会話をする時間を設けた。同じ表現を何度も繰り返すことにより、理解を深め会話に慣れることができた。また、学級全体や個人の課題となる点を見取り、その後の指導に生かすことができた。「質問されて答える」だけでなく、児童が「質問して答えを聞きとる」ことも取り入れた。高学年では回数を重ねていくうちに、ジェスチャーをつけて会話をしたり、単に答えを聞いて終わりではなく、“Because？”と会話を続けていく姿も見られるようになった。単なる復習ではなく、「相手の話す内容を聞き取りたい」、「相手に自分のことを伝えたい」という、コミュニケーション能力が着実に高まってきている。
- ◇中学年での「自分にも書けた」という意欲をいかにして高学年の学習につなげていくかが、課題であった。今年度は、授業のめあてや活動に関連した言語を書く際に、ただ単に反復練習にならないように、読んだり考えたりしながら書く活動を多く取り入れた。それは、教師の見取りの方法としても有効であった。そのような活動を続けることで児童は、既習学習と結びつけて、ひと固まりの単語として捉えることができるようになった。

### 2 課題

- ◆児童自身が学習を振り返る「ふりかえりカード」は、授業のめあてが反映されるよう各学年の発達段階に応じた工夫がされている。ただ、授業者に任されている部分もあるので、学年の系統性を考えたものに整理していきたい。
- ◆本時のめあてが達成できたか評価する場での、見取りの具体的な方法、内容やあるべき姿の基準を設けておくなど、まだ統一されたものができていない。また、年間を見通した評価の重点化や系統化なども考えながら、研究を進めていきたい。

## III 成果物

- ・各学年英語科授業案
- ・山梨市小学校英語科全単位時間計画【岩手小プラン】

(研究主任 廣瀬明子)